



02 南十字星と石垣市の夜景。

南十字星モニターのウェブページはユーザーの使い勝手に配慮し、見える時期や出入時刻などを掲載しているほか、画像には撮影情報を付記しています。また、過去の画像を動画にしたものや、4つの星の位置を示す十字線を引いた画像一覧を掲載するなどの工夫も行っています。2020年1月の公開開始後からさまざまなメディアで話題となり、パソコンやスマートフォンから楽しめる手軽さもあってか5か月で19万アクセス、1日平均1,000アクセス以上の人気コンテンツになりました。みなみじゅうじ座のαからδまでの4つの星すべてがモニターに写っていた日数を集計すると、12月初めから6月末までの約7か月の間に35日、平均すると見える頻度は週に一回程度となっていました。最も多く見えたのは6

月の14日間で、全体の4割を占めました。沖縄県は例年5月に梅雨入りし、6月の梅雨明けから夏にかけて八重山地域では晴れの日が多くなります。南十字星が見える頻度は地域の気候に影響を受ける側面があるのかもしれません。

季節が変わり夏になると南十字星はしばらく見るができなくなります。その代わりというわけではありませんが、この時期は夜空に素晴らしい天の川が広がります。石垣島は緯度が低く、いて座にある天の川銀河の中心部が高い位置に見えます。せっかく設置した装置でこの天の川をモニターしない手はありません。レンズを35mmから魚眼レンズに交換しモニター本体の角度を調整することで、「天の川モニター」に早変わりです。普段はなかなか眺めることができない天の

川を7月から11月まで鑑賞できるようリニューアルしました。今後もシーズンに合わせて模様替えを行っていく予定です。2020年はCOVID-19の影響によって自宅で過ごす時間が増え、これまでの生活様式が大きく変化する年となりました。より多くの方々に天文や宇宙への興味・関心を深めてもらえる機会として、今回のような星空のリモート鑑賞環境整備は今後益々その必要性が高まっていくのではないかと考えています。

●謝辞：NPO法人八重山星の会の通事安夫代表理事、新崎善國理事、本宮信夫理事には設置にあたって貴重なアドバイスをいただきました。ここに感謝の意を表します。



03 南十字星モニター本体の写真。



04 南十字星モニターと街の景色。

家正則名誉教授が日本学士院の新会員に選出

国立天文台の家正則^{いえ まさのり}名誉教授が、2020年12月14日に日本学士院の新会員に選出されました。

日本学士院は文部科学省に設置されている機関です。日本の学術の発展に寄与するために必要な事業を行うことを目的とし、学術上の業績を基に選定された会員により組織されています。

家名誉教授は、望遠鏡の主鏡をコンピュータ制御で理想的な形に保つ「能

動光学」を提唱し、口径8メートルのすばる望遠鏡をハワイ島に建設する計画に貢献しました。すばる望遠鏡の完成後は、初期宇宙の観測に力を注ぎ、当時としては最遠となる130億光年離れた銀河を検出しました。また、大気ゆらぎによる星像の乱れを克服する「補償光学」の機能を持つ装置を開発し、すばる望遠鏡の視力を10倍に向上させることに貢献しました。この装置を搭

載したすばる望遠鏡は、近距離の恒星を公転する惑星の直接撮像に成功しています。このような家名誉教授の業績は、天文学の発展に大いにつながっています。



家正則名誉教授

NAOJ NEWS

国立天文台ニュース

C O N T E N T S

- 表紙
- 国立天文台カレンダー

03

研究トピックス

太陽を遠方の星のように観測する

—太陽の多波長モニター観測から探る恒星黒点診断の可能性—

鳥海 森 (JAXA宇宙科学研究所)

06

シリーズ 国立天文台「宇宙機」関連プロジェクト紹介①

RISE 月惑星探査プロジェクト

「はやぶさ2」レーザ高度計の観測運用の成果と火星衛星探査計画への展開

竝木則行／松本晃治／野田寛大／山本圭香 (RISE月惑星探査プロジェクト)

10

おしらせ

- おかえりなさい、はやぶさ2。そして次のターゲットへ。
堀内貴史 (石垣島天文台)／佐藤幹哉 (天文情報センター)／寺居 剛 (ハワイ観測所)
- 「PyRAF ミニ講習会 (オンライン版)」開催報告
亀谷和久 (天文データセンター)
- 「南十字星モニター」活躍中！
花山秀和、堀内貴史 (石垣島天文台)
- 家正則名誉教授が日本学士院の新会員に選出
- 国立天文台と電気通信大学が包括的な連携協定を締結
- 国立天文台が三鷹市とのさらなる相互協力に向けた協定を締結

15

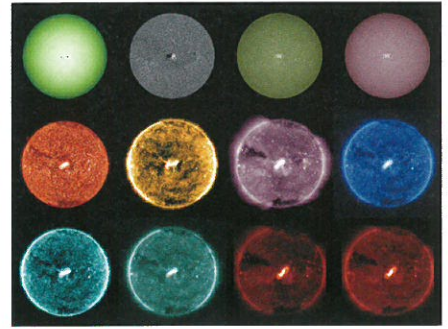
編集後記／次号予告

16

連載「すばる望遠鏡 HSC Cosmic Gallery」11

くらげ銀河 その2

解説：田中賢幸 (ハワイ観測所)



表紙画像

「SDO」衛星・「ひので」衛星が捉えた可視光・紫外線・X線の太陽全面像。

背景星図 (千葉市立郷土博物館)

渦巻銀河 M81 画像 (すばる望遠鏡)

新型コロナウイルス感染症に
関連した対応について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、国立天文台の施設公開、定例公開、イベント等の一部を中止しています。再開につきましては、国立天文台のウェブサイトやSNSにてご案内いたします。みなさまのご理解、ご協力をお願いします。

また、国立天文台にご来訪されるみなさまにおかれましては、下記のことをお願いいたします。

- 新型コロナウイルス感染者との濃厚接触が判明している場合や、その恐れがある場合は、ご来訪をお控えください。
- 咳や発熱などの症状がある場合は、ご来訪をお控えください。
- マスクや手洗いなど、各自で十分な防護策をお取りください。

★くわしくは

<https://www.nao.ac.jp/notice/20200226-coronavirus.html>

をご覧ください。

国立天文台カレンダー

★予定は変更される場合があります

2021 年 1 月

- 8 日 (金) 幹事会議
- 22 日 (金) 幹事会議
- 25 日 (月) 運営会議
- 27 日 (水) プロジェクト会議

2021 年 2 月

- 5 日 (金) 幹事会議
- 19 日 (金) 幹事会議
- 24 日 (水) プロジェクト会議
- 27 日 (土) 観望会 (三鷹) オンライン開催

2021 年 3 月

- 5 日 (金) 幹事会議
- 6 日 (土) 4D2U シアター公開
- 12 日 (金) 4D2U シアター公開／観望会
- 17 日 (水) 幹事会議
- 20 日 (土) 4D2U シアター公開
- 22 日 (月) 運営会議
- 24 日 (水) プロジェクト会議
- 27 日 (土) 観望会